



のグローバル化に対応して学校現場で何が求められているかは、同窓会の皆様も関

平成26年秋に話題になった文部科学省による「スーパーグローバル大学創生支援」事業が示すように、現在の大学改革の最重要課題の一つがグローバル化対応である。この事業に採択された大学は、相当額の予算措置を受ける。教育大学は蚊帳の外であったが、今後

心が深いだろう。

平成25年5月の教育再生実行会議第三次提言では、初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育を充実させるため、①小学校の英語学習の抜本的拡充、中学校の英語による英語授業の実施、初等中等教育を通じた系統的な英語教育②SGHの指定と英語を使う機会の拡大や幅広い教養教育や問題解決力の国際的素養の育成の支援③国際バカロレア認定校の大幅増加④高校生の海外交流事業や短期留学の積極的支援、以上4点を示している。

また平成25年6月閣議決定の日本再興戦略や第2期教育振興基本計画でも、グローバル社会に対応した教育をはじめ、各分野を牽引できるような人

グローバル化と桃太郎

兵庫教育大学副学長 福田 光 完



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第39号

平成27年（2015年）3月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

材を育てることが急務であるとしている。グローバル人材とは何かといえば、平成24年6月に国家戦略室グローバル人材育成推進会議審議まとめ（ネット上で公開されている）の中で、

要素Ⅰ…語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ…主体性・積極性・チャレンジ精神・協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ…異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

と示されている。国境のない環境問題、気候変動による世界規模の大災害、宇宙開発競争、温暖化による伝染病等の拡大、情報化・ネット社会による急激な生活変化等、日本が取り組むべき課題は山積しており、確かに「グローバル化対応」が必要なのである。小学校から英語を段階的に身につける必要があるのはその第一歩だというわけだ。このような環境で育った世代が大学に入ればどうなるか？当然、現在の大学教育システムでは立ち行かなくなるのは自明、だから大学も自ら早く改革しなさいという、まさに改革の遅い小学校から大学までを対象にした国（政治）主導の教育再生戦略なのである。

そもそも大学の国際化が叫ばれた背景には、世界のトップ100大学が話題になってから（2005年前後）のような気がする。現在よく用いられるイギリスのタイムズ・ハイヤー・エデュケーションによる2014年の発表では、100位以内の日本の大学は

東大と京大だけであった。ランク付けには多くの批判があることも事実である。100位以内の大学には、イギリスが歴史の中で植民地等で関与した国が多くを占める。しかし、中国、韓国、そしてヨーロッパの大学もこの競争に巻き込まれており、国家が相当の予算を有力大学に注ぎ込んで100位以内に入るのに懸命である。そして東大を筆頭に日本の大学に要求されるのはグローバル化対応（留学生数、外国籍の教員数、英語による授業等）であり、この点を克服すれば確実にランクは上昇するというのである。

今の日本の若者（特に男性）は内向き志向だといわれる。日本人留学生数の低下はそのためだという解釈もある。歴史に残る国際人、新渡戸稲造は小学校で英語を身に付け、21歳（1883年）の時、入試の面接で「太平洋の架け橋になりたい」といった話是有名である。新渡戸の著作には今のグローバル化につながる発想が多いが、その中で「桃太郎の昔」は講演集として随想録（1907年）に集録されている。当時の日本は日清・日露両戦争に勝って昂揚していた時期である。その歴史背景を考慮しつつ新渡戸の主張を肯定的に捉えれば、「桃太郎の昔」は実に味わい深い。それに比べて芥川龍之介の「桃太郎」（1924年）は芥川ファンとしてはあまりいただけない作品だ。内向き志向と桃太郎、グローバル化と桃太郎…皆さんはどうお考えだろう。

ブロック活動の紹介(2)(通算)

―北海道・東北ブロック―

北海道・東北ブロック長

川村 庸子



平成23年3月11日、午後2時46分、東日本大震災発生。マグニチュード9を

記録した地震は、最大震度7を記録しました。地震後に発生した大津波が沿岸部を襲い甚大な被害を及ぼしました。また、この地震動と津波の影響により東京電力福島第一原子力発電所で、炉心溶融による放射性物質の放出をとまなう原子力事故が発生しました。

同年5月21日の大学院同窓会定例役員会では早速、教育復興支援について話し合われ、震災でとりわけ被害の大きい岩手、宮城、福島の3県の各教育委員会に20万円ずつ寄付することが決定されました。

3県で頂戴した貴重な義捐金は、岩手県支部の川村、福島県支部の永嶋、宮城県支部の遠藤の各評議員が、各県教育委員会を訪問し、教育長にお届けいたしました。後日、教育委員会から「寄付された復興支援金を基に子どもたちの教育のために役立てたい」と感謝の言葉をいただいております。

こうした同窓会の温かく力強い絆に感謝し、当時の宮城県人会菅原廣次会長を中心とした宮城県支部は、27年度全国大会開催に名乗りを上げました。

平成24年、大学院同窓会ではブロック組織に関する細則が制定され、ブロック活動の活性化を図るためにブロック会議経費と支部活動助成金が予算化されました。北海道・東北ブロックではこれを活用し、宮城大会へのバックアップを決定しました。

現在、遠藤茂実行委員長を中心に準備を進めています。大枠は次のとおりです。

開催日は平成27年8月1日(土)～2日(日)、会場は、仙台市のホテル白萩(公立学校共済組合宮城支部)。記念講演の講師はNPO法人「森は海の恋人」理事長畠山重篤氏です。一人の漁師が呼びかけた植林運動によって気仙沼の海は青さを取り戻し、フランスの力キ業者も絶賛する海になりました。それからしばらくして、あの3・11大津波が気仙沼を襲い、手塩にかけた力キは全滅。最愛の母も失います。そんな絶望的な状況の中である変化が。ぜひ、お聴きしたいお話です。巡検は、宮城県の津波被災地域と松島を予定しています。全国の同窓生の皆さま、杜の都「仙台」でお会いしましょう。

ブロック活動の紹介(3)(通算)

―九州・沖縄ブロック―

九州・沖縄ブロック長

大坪 文二



九州・沖縄ブロックの特筆すべき事柄としては、平成25年8月3～4日に第33

回兵庫教育大学大学院同窓会総会を福岡市のリーセントホテルにて、学長を初めとする大学関係者や会員等70余名の参加を得て開催したことです。このことについては、同窓会会報第38号で詳しく報告したとおりである。

そこで、開催までの経緯について話をすると、それまでに本ブロックでは過去に福岡県で2回、佐賀県で1回同窓会を実施していた。そこで、今回は九州新幹線が博多から鹿児島まで開通して交通の便もよくなったこともあり、できればこれまで実施していない県で開催できないか模索した。しかし、既に兵庫教育大学への派遣を止めた県もあるなど各県の諸事情から、最終的には開催場所は福岡とするが、実施主体を本ブロックで行うということで落ち着いた。

そこで、実施計画の策定や検討、そして開催準備は全県の支部代表が集まってもらって行うことにしたが、な

かなか困難であった。開催までに3回ほど全体での検討会議をもったが、それぞれに予定があり、全支部代表が集まることはできなかった。また、沖縄を含めた8県の支部代表全員が集まるとなると、旅費の問題も大きかった。

それでも何とか開催にこぎ着けたことは幸いであつた。ブロック主体での開催と言うものの、やはり開催県の福岡の先生方には当日の運営や資料準備、そして翌日の巡見等、いろいろとご協力をいただき大変有難かった。

ところで、現在の本ブロック各県の活動状況を報告すると、毎年、同窓会・研修会を実施している県が2県ある。その中身は、県幹部による講演会や修了生による報告会である。他に、役員会を定期的に実施している県もある。その中で、これまで同窓会本部との連携が十分になされていなかった県が、若い会員のために、大学との連携を図ることを推進しようとしているのは嬉しい限りである。

一方で、研修会・同窓会の実施に至っていない県や支部そのものの組織が立ち上がっていない県もある。本ブロック全体の底上げを図らねばと思うところであるが、支部内の諸事情や旅費の問題、さらには支部代表との連絡体制の構築など、課題もある。

第34回兵庫教育大学大学院同窓会・山口大会

本大会を平成26年(2014年)8月9日(土)・10日(日)、「セントコア山口」において開催しました。折しも、台風11号が接近中で開催が危ぶまれましたが、山口県支部の的確な判断により、開催が決定されました。総会、研究大会、情報交換会、巡検ともに盛り上がりの中で無事終え、成果を挙げました。

特別講演 教員養成改革と 兵庫教育大学の役割

兵庫教育大学長

加治佐 哲也



1 教員養成
高度化の必要
性
複雑化・高
度化し、絶え
ず変化する学

校教育の課題に対応するために、養成段階で学び続ける教師の基盤づくりを行う必要がある。しかし、学部四年段階だけでは難しく、一定期間現場に出るまでの期間を延ばしていく、つまり高度化が必要となっている。

また、現職教員の学び直しが必要となってきた。学校の組織力を上げるために、管理職層の養成が喫緊の課題となってきたのである。

7月、文部科学大臣から中教審に諮問が出され、学校組織のチーム化が明確に打ち出された。学校を一つのチー

ムとして組織化するためには、現職教員がリーダーになるための力をつけなければならず、彼らの学ぶ場として高度化した大学院が必要となっている。

2 教員養成高度化の提言

民主党政権時、「教職生活の全体を通じて教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24年8月中教審答申)が出たとき、修士レベル化が話題となった。しかし、自民政権ではほとんど使われない。ただし、志向は同じで、専修免許状と別に、高度専門免許を作る、あるいは専修免許状を廃止し、高度専門免許を作る、そして学校経営、生徒指導、授業実践等、特定の専門性を証明する免許を作る案が出ている。

次に、「大学院段階の教員養成の改革と充実等について」(平成25年10月協力者会議報告)では、現在、25大学定員815人の教職大学院を拡充し、すべての都道府県に教職大学院を作る。また、現在の修士課程を改革し、高度専門職としての教員養成機能とすること。また、修士課程を実践的な力

リキウムにすること。例えば、修士課程の中に学校の実習を入れ、教科の実習を大学院レベルで行うこととし、教員養成を主たる目的とする国立の修士課程の教員養成機能は、教職大学院へ段階的に移行する。さらに、専修免許状に学校実習を導入すること。そして、実務家教員の力量形成を図るとともに、研究者教員も実務的な能力を持つようにすること等が報告されている。

3 教員養成高度化の課題

一つめは、教職大学院の拡充で、平成28〜33年度中にすべての教員養成系大学・学部を設置することになる。

二つめは、大学(大学院)と教育委員会・学校との連携・協働の深化である。例えば、初任研を大学院の単位として取り入れ、大学院レベルを出た者は初任研なしとする、あるいは、初任研を受けた者は大学院の単位として認定する仕組みづくりが必要になっている。

三つめは、教職大学院入学選抜、大学と教育委員会とが連携して行う。それを事実上の採用選考とする。

四つめは、「教師インターン」(自民党提案)の導入においては、教職大学院修了者は免除することが必要である。五つめは、教職大学院修了者に対して一次選考試験の免除等の採用優遇である。

六つめは、教育委員会・現場と大学の双方の人事交流である。

七つめは、学生への修学促進措置の拡充としての給付型奨学金の復活、及び研修定数増である。

4 兵庫教育大学の高度化への取組

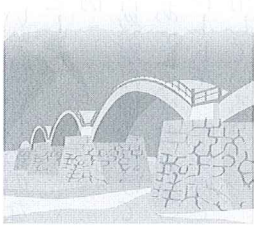
本学は、「教員養成の高度化に向けての先導的役割を果たす」べく取り組んでおり、文科省も「大学院における現職教員の再教育・研修(管理職研修等)の拠点」と認識している。「兵庫教育大学における教員養成の機能強化に向けた取組の将来構想」のミッションの中にも、「教師教育の先導的モデルの構築」が最初からあった。

ビジョンには、リージョナルセンターとしての機能、及びナショナルセンターとしての機能の二つがある。

後者の機能が兵庫教育大学の基本的役割で、スーパーリーダーの養成である。全国に教職大学院ができる中で、他の教職大学院では養成できない人材を養成していく。例えば、校長先生方の中心になる学校経営のスーパーリーダーの養成、市町村教育長の養成、特別支援教育スーパーバイザーの養成である。また、博士課程は、教職大学院の教員の養成を考えている。

前者の機能は、主に地域における機能、兵庫県における機能である。

なお、学部卒段階での教員就職率が本学は高く、優れた新任教員の養成機能を果たしているところである。



実践研究発表

萩教育の伝統
「明倫小学校と
萩西中学校の連携」

山口県萩市立萩西中学校

校長 新川 美 水



◆萩藩校明倫館

萩藩校明倫館は、5代藩主吉元公により享保三年

(1718年)、萩城南方堀内の九六〇坪に建立された。孟子の滕文公篇「庠序学校(地方校)を設け、以て之を教ふるは皆人倫を明らかにするゆえなり」を採って『明倫館』と名付けられた。13代藩主敬親公により、嘉永二年(1849年)城下町のほぼ中央江向の一万五千坪の敷地に重建明倫館が建立された。

◆明倫小学校の紹介

明治18年(1885年)に、藩校明倫館の跡地に三角州内四小学校を合併して明倫小学校と命名された。初代校長は中村雪樹先生である。昭和十年十月十日午前十時に開校した木造二階建ての四棟の校舎は平成25年度末まで使用した。そのうちの棟本館は山口県登録有形文化財第一号である。

◆明倫館の学風と松陰先生の教育精神の尊重

明倫館の学風である『成徳達材』は、開学以来の学風で、史跡である二つの明倫館碑にも刻まれている。「徳を成し材を達す」と読み、今では「心を育て才能を伸ばすこと」と解釈している。

また、藩校明倫館の山鹿流兵学師範であり教育者の吉田松陰先生の教えである至誠、知行合一、師弟同行、個性の尊重等を、日々の教育活動全体を通して実践している。

◆松陰読本

松陰読本は、昭和34年に明倫小学校社会科研究会によって編集され、現在の版権は萩市教育委員会が、発行は山口県教育会が行っている。萩市教育委員会は、毎年小学校四年生に無償配布し、計画的に四年生以上の総合的な学習の時間に活用している。ねらいは、激動の時代を生き抜いた思想家であり教育者である郷土の先覚者松陰先生の生き方に学び、誇りをもち、より高い自己実現への意欲を高め、郷土を愛する心を育てることである。

◆松陰先生のことばの朗唱

松陰先生のことばの朗唱は、昭和初期に一部の教員によって行われていたが、全校をあげて取り組み始めたのは昭和56年からである。松陰先生の著作である「士規七則」「講孟余話」等の中から、人としての生き方や読書に関することなど一八文を選び各学期に一文、一年間で三文、六年間で一八文を朗唱している。朗唱は朝の八時二十分

から全学級で一斉に行っている。早朝から級友と声を合わせて直立不動で朗唱することにより、松陰先生のことばを単に覚えるだけでなく、心の安定を図り、学習への意欲を高めることに役立っている。

◆明倫小ABCの実践

平成21年度校長着任と同時に、校歌、重点目標、学年目標を分かり易く見える形にしようと、明倫小ABCをキャッチフレーズと同時にチャレンジ目標に掲げた。具体的には、A…相手より先に明るく元気な挨拶、B…ビューティフル(美しい心、美しい環境)、美しい心は、いじめを絶対にしない、美しい環境は、履き物をそろえる、花壇の世話をする、C…チャレンジ、一人ひとりが一学期毎に具体的な目標をもつ(学習、生活、読書)である。

◆萩西WEST愛

平成24年3月に明倫小学校を卒業した135名中3分の2に当たる91名は萩西中学校へ入学し私も異動となった。入学間もない一年生から明倫小ABCのようなスローガンを創ってほしいと懇願された。実は、構想を練っていたので早速職員会議に諮り、西中の西は英語ではWESTなのでWESTの頭文字に意味をもたせて、次のようにした。W…私たちは、E…いいこと、S…素敵なことに、T…トライします。生徒は愛の音や漢字、意味を好んでいるので『愛』の漢字を入れ、学校を愛してほしい、友達を愛してほしいの願いを込めて、『愛』の「あ」は挨拶を

します、『愛』の「い」ははじめのな学校にします、とした。

◆小中連携の具体例

①明倫小学校で各教室に備え付けて活用していた「めあて」(学習課題)と「まとめ」のプレートを、中学校でも各教室に備え活用している。

②明倫小学校では宿題以外の自主勉強を10分×学年としていたので、中学校も同様に学年×1時間とし、自主学習ノートも小学校からの継続とした。今春は入学してくる卒業生の春休みの宿題を小中学校で共有し、中学校で確認した。夏休み中の中学校の補充学習会に、旧六年生の担任を中心に参加があった。

◆成果と課題

成果は次の二点である。

- ・生徒指導上の課題が激減した。
- ・全国学習状況調査は、着実に伸び、県平均を大きく上回っている。

課題は、学力面では二極化の解消、特に、低位の生徒のやる気を醸成し、基礎学力の定着を図ること。生徒指導面ではアウトメディアをどう進めるか、である。

◆まとめ

学校は多くの課題を抱えているが、『不易』の取組として、一人ひとりの心を育てることに力を注ぎたい。『流行』は、学力向上で、わかる、できる授業をめざしての授業改善と二極化の解消を、生徒、保護者、教職員が一丸となって、「チーム萩西中」で推進する。

演 防長教育と松下村塾

講

松陰神社 宮司

宮司 上 田 俊 成



◆はじめに
江戸時代の防長教育は、教育水準が非常に高かった。

長州藩には、藩校明倫館を筆頭に、郷校（19校、全国一位）、寺子屋（1304校、全国二位）、私塾（106校、全国四位）の四種の教育機関があった。これらの機関がそれぞれうまく機能をしていった。

また、13代藩主毛利敬親が、財政改革と人材育成を核とした教育改革を行った。これらのことは、挙藩一致体制を支える精神的基盤を醸成し、藩内外の危機的状況に対応できた。

◆松陰先生の教育のあり方

11歳の時、藩主親敬の親試といわれる御前講義を堂々として、将来を期待された。松陰先生も藩主に対して特別の敬愛を持ち続けた。

叔父玉木文之進のスパルタ式教育にも耐え、松下村塾をつくった。教育者としての本領を発揮したのは、「野山獄」での生活と「下田踏海」の失敗・自首が契機であった。

海外渡航を失敗し、萩に送り返された金子重輔が岩倉獄で獄死した時、自

分の食費を節約して墓を建てたり、知人に手紙を出し、歌や詩を集めて追悼文集を作成したりした。重輔を国のために死んでいった志士として弔った。

長い獄生活で、生きる希望を持たせたいと、得意な人が指導者になり、晝俳句、句会等の学習会を行った。野山獄司の温かい配慮は忘れられない。

約一年後病気を理由にして出牢し、実家の杉家の三畳半の部屋（幽囚室）に幽閉させられた。ここで、家族、親族相手に『孟子』中心の講義が行われた。

講義の終わった秋頃から、近隣の若者たちの出入りが始まった。一年一カ月で92人の塾生が入り出した。狭い三畳半の部屋では対応できなくなり、八畳の小舎を補修して塾舎とした。

この中に、明治維新を見ずして亡くなった久坂玄瑞、高杉晋作、入江九一、吉田稔麿の松下村塾の四人の秀才、四天王と呼ばれる人たちがいた。

◆松下村塾での塾生教育

公教育は、一年が勝負である。全て学校の責任であるという心構えがある。松下村塾では、日本を背負う人材を育てようというスローガンがあった。また、絶えず高い志を掲げ、それを実践していった。

まず、生き方（いきざま）を端的な言葉で「誠」である。「至誠にして動かざるは、未だ之あらざるなり。」相手が悪いのではなく、全て自分が悪いのである。

次に、「知行合一」は知識、学問は行動と実践が伴わないと意味がないと

いう陽明学の考え方があった。今日、新渡戸稲造の『武士道』を見直すことがとても大切である。

また、集団指導と個人指導が的確に押さえられていた。集団で学びその成果を挙げるには、まず、心を通わせ、お互い人格を認め合い、分り合って励まし合うことであると、松陰先生は考えた。礼儀とか取り決めとかは不必要で、仲良くするところから始めれば、きちんと議論になると信じていた。

個人指導では、やって来る塾生各々に対応し、対話、議論を通しながら、自分から気づいて改めていく待つ教育という方法を取った。松陰先生は、これらを一年間駆使した。具体的な授業の方法は、次のように多彩であった。

○会読：数人が会集して課題図書を読むこと。読みながら意味や内容を考察していく協同学習による読解。

○討論：時事問題等を取り上げ、互いに討論する。

○講義：記載事項や教訓を日常生活や時勢に関連させながら、自らの思想信条を展開する方法。

○策問：課題を与えて書かせる作文（時事問題等）。

○野外学習：読書の方法や歴史の話など、草取りや米つきをしながら学習した。

○武芸：銃陣訓練や剣術等を行った。

○対読：一人が読んで他が聴き、誤読を直したり、読めない箇所や意味の分からない部分を共に考える勉強方法。

◆個性伸長の教育

塾生の人物評が随所に認めてあり、興味深いものがある。

高杉晋作を久坂玄瑞と比較している。高杉は、入塾当初、学問も多少未熟で、振る舞いにいささかの懸念を抱いていたが、非常に短時間で学問、議論ともに長足の進歩を遂げたことを喜んでいる。高杉晋作という個性を適確にとらえて伸長させたと見える。

教育者とそれを受ける者との魂のぶつかり合いがあれば、待つ教育といえども、短時間の成果が期待できるのではないか。それを引き出すのも指導者としての力量である。

◆終わりに

松陰先生は至誠の根底に、人は生まれながら善であることを確信している。人としてどう生きるべきか、日本人としてどう生きるべきかを、お互い学び合った。八畳の狭い部屋から生まれた教育の原点を示す基本的なものの考え方は、時代が変わっても変わらない。松陰先生が残そうとした「大和魂」について再度考えてみたいものである。

（以上・文責 山口県同窓会）

ブロック活動発表

同窓会の勝俣組織部長から、ブロック活動の活性化に向け、中部・東海ブロックに関する熱のこもった活動報告が行われました。

平成26年度 教育実践研究活動等に係る受賞者

本表彰は平成22年度から実施しています。兵庫教育大学大学院学校教育研究科の修了生本人または構成員とする団体の、教育実践研究活動等における顕著な成果や功績に対し、学長と同窓会長の連名において表彰を行うものです。

本年度は次の4名の方が受賞されました。

(五十音順・敬称略)

	氏 名	教育実践研究活動等の内容	専攻・コース・期
嬉 野 賞	さくら よしのぶ 佐倉 義信 (大阪府)	児童詩教育の指導者として豊富な実績があり、国語教育に関する編著執筆や研究論文等多数。児童詩教育普及活動に努め、博報賞(国語教育部門)を受賞する。平成13年連合大学院後期博士課程修了(学校教育学博士)。	教科・領域教育専攻 言語系コース4期、 連合大学院後期博士課程
	ふくやま いつお 福山 逸雄 (沖縄県)	教育研究者として不登校問題や教育相談、教職研究の分野・領域において研究に努め、論文や共著等を多数執筆する。実践研究活動における後進の指導や日本学校教育相談学会の設立及び運営に尽力し、社会的貢献も大きい。	学校教育専攻 生徒指導コース1期
奨 励 賞	なりさわ しんすけ 成澤 真介 (岡山県)	特別支援学校教諭。発達障害に関する支援方法について研鑽を重ね、日本支援教育実践学会研究奨励賞を受賞。地域における特別支援教育活動の功績により、文部科学大臣優秀教員表彰を受賞する。特別支援教育に関する著作も多い。	学校教育専攻 障害児教育コース17期
	ふじもと ひろゆき 藤本 浩行 (山口県)	小学校教諭。社会科の地域教材を生かした教育実践に尽力し、文部科学大臣優秀教員表彰等を受賞する。学級経営や学習指導等に関する共著・単著も多数。地域の教育サークルを主催するなど後進の育成にも貢献している。	学校教育専攻 教育方法コース17期

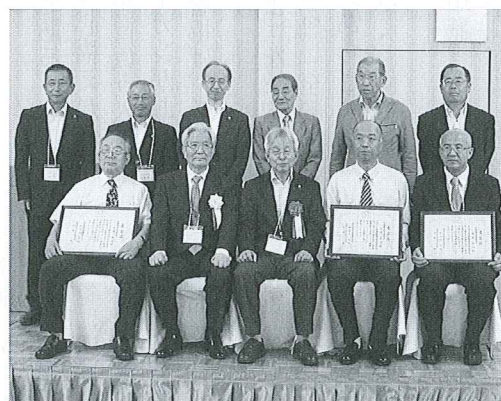
平成25年度で大学院同窓会役員を辞された方

長年にわたり同窓会役員をお務めいただき、本会の発展にご尽力くださいました次の方々が、平成25年度末をもって役員を退かれました。本部活動はもとより、支部活動の牽引役としても、その功績は非常に大きいものです。

深く感謝の意を表しますとともに、一定の要件を満たされた方には感謝状と記念品をお贈りいたしました。

(敬称略)

支 部	氏名(コース・期)	退任時の役職
東 京 都	小山田 穰(教育経営1期)	支部代表
大 阪 府	柴山 雅由(生活健康系13期)	理事、支部代表
兵 庫 県	伊藤 泰弘(教育経営6期)	副会長(事務局長)
広 島 県	大畑 和典(生徒指導7期)	支部代表
福 岡 県	西河 武(自然系2期)	理事、支部代表
宮 崎 県	中原 邦博(言語系1期)	支部代表



▲教育実践研究活動等に係る受賞者

編集後記

をめのに春一番。因みに「をめの」とは、播磨国風土記に記されている現社町辺りの地名です。▼多くの皆様のご協力により発行することができました。誠に有難うございます。▼発表された萩教育、防長教育の真髄をとらえ、生かしたいものです。▼次年度の会報は節目の第40号となりますので、新たな試みを考えています。

(広報部 勝田 章)



8月に第2号(写真、1,019円+税)を出版しました。内容は、下村文部科学大臣祝辞、大橋会長挨拶、加治佐学長よりの激励、「嬉野賞」他会員の優れた研究活動の紹介、全国各地の学校種の特徴的な取り組み、会員の著作等で構成しています。次号(第3号)は、都道府県各地に今日に在る伝統的な「学校」を特集して平成28年夏に発行します。

※ ※ 出版のお知らせ ※ ※

兵庫教育大学大学院同窓会発行

教職の先達(第2号)(2012-2013)

私たちは、教育実践と学術研究の融合を具現化できる可能性を有する人材の集合体、と言っても過言ではありません。この「実践と理論の融合」と貴重な体験的・職業的感覚の伝承をめざした会員による実践研究誌「教職の先達」(2年毎刊行)を平成24年7月に創刊し、本年度

兵庫教育大学大学院同窓会第32期会計決算報告書

(収入の部)

(自 平成25年6月1日～至 平成26年5月31日)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会 費	4,200,000	4,469,616	269,616	295名+3名
繰 越 金	4,277,322	4,277,322	0	
雑 収 入	678	38,760	38,082	実践研究誌売上金
合 計	8,478,000	8,785,698	307,698	

(支出の部)

款 項			予算額	決算額	増 減	款 項			予算額	決算額	増 減
款 項 目						款 項 目					
総務部	役員会費	旅 費	800,000	762,720	37,280	広報部	会報印刷費	印刷費等	250,000	234,150	15,850
	事務費	需用費	2,000	0	2,000		事務費	需用費	5,000	0	5,000
		通信費	0	0	0			通信費	2,000	2,000	0
		旅 費	0	0	0			旅 費	10,000	4,850	5,150
		会議費	0	0	0			会議費	2,000	0	2,000
	計		802,000	762,720	39,280		計		269,000	241,000	28,000
会計部	事務費	需用費	10,000	5,502	4,498	組織部	活動推進費	ブロック経費	200,000	40,000	160,000
		通信費	15,000	10,430	4,570			支部助成金	200,000	30,000	170,000
		旅 費	5,000	0	5,000		事務費	需用費	2,000	0	2,000
		会議費	0	0	0			通信費	2,000	0	2,000
	計		30,000	15,932	14,068			旅 費	0	0	0
研究部	印刷製本費	実践研究誌	0	0	0			会議費	0	0	0
	事務費	需用費	30,000	29,057	943		計		404,000	70,000	334,000
		通信費	20,000	19,610	390	事務局費	渉外費	出席旅費等	20,000	2,457	17,543
		旅 費	10,000	24,000	△14,000		印刷費	冊子印刷費	120,000	123,375	△ 3,375
		会議費	8,000	14,631	△ 6,631		委員会費	旅 費	400,000	0	400,000
	計		68,000	87,298	△19,298		事務費	需用費	150,000	149,420	580
収入決算合計：8,785,698円 支出決算合計：3,198,180円 差引残高：5,587,518円 第33期繰越金にあてます。 兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金会計は、次のとおりです。	通信費	0	0	0	通信費			0	0	0	
	旅 費	0	0	0	旅 費			0	0	0	
	会議費	20,000	12,678	7,322	会議費			20,000	12,678	7,322	
	計		710,000	287,930	422,070	計		710,000	287,930	422,070	
	総会運営費	運営費	430,000	430,000	0	総会運営費	運営費	430,000	430,000	0	
	院生協活動助成費	運営費	100,000	100,000	0	院生協活動助成費	運営費	100,000	100,000	0	
	寄付金		1,000,000	1,000,000	0	寄付金		1,000,000	1,000,000	0	
	「兵庫教育大学大学院同窓会研究助成金」					「兵庫教育大学大学院同窓会研究助成金」					
	予備費		4,665,000	203,300	4,461,700	予備費		4,665,000	203,300	4,461,700	
	繰越金・その他		4,665,000	203,300	4,461,700	繰越金・その他		4,665,000	203,300	4,461,700	
	合 計		8,478,000	3,198,180	5,279,820	合 計		8,478,000	3,198,180	5,279,820	

兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金会計

定額貯金 5,543,000円 平成19年10月31日預入
《昭和59年8月24日預入分》
定額預金 4,457,000円 平成24年 5月14日預入

以上、報告いたします。
平成26年 5月31日
兵庫教育大学大学院同窓会 会長 大橋 博
同 副会長（会計部長） 北山 鎮道

兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金会計

定額貯金 5,543,000円 平成19年10月31日預入
《昭和59年8月24日預入分》
定額預金 4,457,000円 平成24年5月14日預入

以上、報告いたします。

平成26年5月31日

兵庫教育大学大学院同窓会 会長 大橋 博
同 副会長（会計部長） 北山 鎮道

～*～*～*～監 査 報 告～*～*～*～

上記の第32期会計決算報告並びに運営積立金会計を監査した結果、正確であることを認めます。

平成26年5月31日

兵庫教育大学大学院同窓会 監事長 望月 茂
同 監 事 中根 弘之

第34回兵庫教育大学大学院同窓会総会・山口大会



第34回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会 in 山口 平成26年8月9日 於セントコア山口



▲情報交換会（懇親会）



▲実践研究発表による研修



▲総会



▲巡検（明倫館）

次回は
宮城大会で
集おう

期日：平成27年8月1日(土)
～2日(日)

会場：ホテル白萩
(公立学校共済組合宮城支部)



▲巡検（松下村塾）